

Coalesce 関数

Qlik Sense で利用できる関数に見慣れない関数があったので、ご紹介しようと思います。ヘルプの「NULL 以外の最初の引数を返します」という説明の通り、指定されたリストを先頭から確認し最初に見つかった NULL 以外の値を返す、という動作をします。SQL にも同様の関数がありますね。

■メーカーヘルプサイト

<https://help.qlik.com/ja->

[JP/sense/February2021/Subsystems/Hub/Content/Sense_Hub/Scripting/ConditionalFunctions/coalesce.htm](https://help.qlik.com/ja-JP/sense/February2021/Subsystems/Hub/Content/Sense_Hub/Scripting/ConditionalFunctions/coalesce.htm)

■注意

取り込んだデータが Null として解釈されず、Coalesce 関数が意図した動作をしない場合は、NullInterpret 構文を記載します。

テキストファイルや Excel、Inline ステートメントの空白値を Null として、解釈することができます。

以下の変数をロードスクリプトに定義します。

- CSV やテキストファイル
SET NullInterpret=' ';
SET NullInterpret =;
- Excel ファイル
set NullInterpret =";

■ 利用方法

以下のようなサンプルデータを用意しました。

組織マスタ						
担当者コード	電話番号1	電話番号2	電話番号3	担当営業	部署名	支社
3	080-1049-9186	090-1404-2950	090-1299-1262	榎本 誠	営業一部	九州支社
4	090-7705-0869	080-4399-5273	080-6851-0803	岡崎 良夫	営業二部	大阪支社
5	080-8284-7288	080-1605-6310	080-6955-9121	下山 幸夫	営業開発部	大阪支社
6	-	090-8294-6011	080-5960-8484	加藤 泰江	営業開発部	東京本社
7	-	-	080-4941-6819	吉川 隆	第二営業部	東京本社
8	-	-	-	橋本 伸也	営業二部	大阪支社
9	080-0547-5496	090-4840-3507	080-7001-8771	五十嵐 淳也	第二営業部	東京本社

Coalesce 関数のパラメータは無制限です。

Qlik Sense のチャートの列には、電話番号 1~3 の 3 つのフィールドがあります。

最後の列は、Coalesce 関数を使用して、最初に[電話番号 1]フィールドをチェックし、次に[電話番号 2]フィールドで NULL 以外の値をチェックします。

最初に見つかったものが返されます。

最後のパラメータに任意の文字列を指定すると、見つからなかった場合に指定の文字列を表示することができます。

担当者コード	電話番号1	電話番号2	電話番号3	Coalesce(電話番号1, 電話番号2, 電話番号3, '登録なし')
3	080-1049-9186	090-1404-2950	090-1299-1262	080-1049-9186
4	090-7705-0869	080-4399-5273	080-6851-0803	090-7705-0869
5	080-8284-7288	080-1605-6310	080-6955-9121	080-8284-7288
6	-	090-8294-6011	080-5960-8484	090-8294-6011
7	-	-	080-4941-6819	080-4941-6819
8	-	-	-	登録なし
9	080-0547-5496	090-4840-3507	080-7001-8771	080-0547-5496

<数式>

Coalesce(電話番号 1, 電話番号 2, 電話番号 3, '登録なし')

<解説>

coalesce(パラメータ 1[, パラメータ 2, パラメータ 3, ..., '任意の文字列'])

カンマ(,)区切りで項目を指定します。

見つからなかった場合に指定の文字列を表示したい場合は、パラメータの最後にシングルクォーテーション(")で任意の文字列を囲み、指定します。

以上